

【学校評価資料】

								総社小学校	
学校経営目標	具体的計画	令和5年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		学校関係者評価		
			達成状況	評価	達成状況	評価	達成状況	評価	
1	心の教育の充実	【やさしい子】 ①道徳教育、人権教育、総社つ子応援プロジェクトの取組を充実することにより、児童同士の絆や思いやりの心を育て、長期欠席・不登校やいじめの未然防止に努める。 ②「すきだ総社小学校運動」すんで挨拶、きちんと歩行、だまって掃除を推進するとともに愛校心を育てる。 (総社を愛す子供)(心優しい子供)(礼儀正しい子供)	①周りの人への優しさ 児童:87.5p 児童:88.9p ①思いやり 保護者:85.2p 教職員:91.2p	A	・道徳の授業、くすの葉の取組等を通して、児童の思いやりの心の育成に努めてきた。2学期以降も、児童同士の絆を深められるように今の取り組みを継続していきたい。				自己評価の適切さ
			②進んであそびができていてという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【人間関係・特別支援教育】 児童:82.2p 保護者:81.8p 教職員:88.5p	B	・挨拶運動では、多くの児童が参加することができたが、達成基準には至っていない。挨拶運動を継続して取り組むとともに、全教職員で声掛けを続けていきたい。				
2	健康・体力づくりの推進	【たくましい子】 ③健康教育、特別活動を充実することにより、児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。総社東中学校ブロックの学校園と連携し、ノーメディアの取組を推進する。 ④目標をもって主体的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図るとともに最後まで粘り強く頑張る態度を育てる。	③感染症対策として手洗い・換気等を行っているという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】 児童:89.8p 保護者:90.9p 教職員:89.4p	A	・手洗いが習慣化している児童が多い。夏休み明けに、保健委員会と連携して「手洗いいズル」の取組を行い、手洗いの意識向上に努める。また、感染症の流行する時期には、手洗い、換気についての呼びかけを強化する。				
			④睡眠とメディアコントロールを中心に、基本的な生活習慣が身に付くよう取り組んでいるという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】 児童:88.8p 保護者:82.3p 教職員:83.5p	A	・メディアとの付き合い方について、授業や学級懇談、学年だより等で啓発を行った。今年度から3年生以上の児童はタブレットの持ち帰りが始まっており、メディアに触れる時間が増えることが予想される。引き続き各家庭でメディアとの関わりが考えられるような呼びかけを、学年だよりや学級懇談等で行っていく。				
			⑤自分から進んで運動しているという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】 児童:83.4p 保護者:81.4p 教職員:86.0p	A	・体育委員会が計画し、全校でチャレンジランキングの「ドッチバズラリー」に取り組んだ。2学期以降も別の種目のチャレンジランキングに参加し、全校で運動する機会をもつことができるようにする。				
3	確かな学力の育成	【すんで学ぶ子】 ⑤児童が主体的・対話的で深い学びを実践し確かな学力が身に付けることができるように授業改善を行う。特に、考える活動や書く活動を重視する。 ⑥朝学習や総小チャレンジタイム、家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を目指す。	⑥自分の考えや振り返りを書いているという回答が85ポイント以上である。 (児童・教職員) 【学力向上】 児童:85.2p 教職員:88.7p	A	・声掛けを続ける。教員側が意識をして、振り返りまでで1単位時間という意識をもち計画をする。 ・書けない児童に個別に声掛けをする。 ・低学年では、言葉で伝えることから始めて、書けるようになっていく。個別に支援がある児童は、最初は教員が書いてやるのも可とする。				
			⑦国語と算数の単元テストの正答率8割以上の児童が、(低学年80%、中学年75%、高学年70%)80ポイント以上である。 (児童・教職員) 【学力向上】 教職員:77.0p	B	・単元に入る前に学年で指導の重点を共通理解する。 ・授業の着地点(まとめ)を明確にさせてから臨む。 ・授業では理解しているように感じるが、定着に課題がある。宿題でその日学んだことを徹底して出すようにする。 ・時間をおいて復習する。				
			⑧家庭で学年×10分+10分勉強しているという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【学力向上】 児童:85.5p 保護者:76.7p 教職員:82.1p	B	・11月号の学年便りで統一して啓発をしてもらう。(メディア週間にも意識を継続してもらうために) ・学校便りにも啓発文を入れてもらう。				
4	地域とともにある学校づくり	⑦各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。 ⑧きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域・関係機関等との連携を深め、児童の健やかな成長を図る。	⑨学校から積極的に情報発信が行われているという回答が85ポイント以上である。 (保護者・教職員) 保護者:85.2p 教職員:85.6p	A	・ホームページで学校や学級での子どもの様子をよりタイムリーに発信することができるよう、各学年のページ更新を積極的に行う。 ・東中学校区で連携し、幼稚園、小・中学校の交流授業等を実施し、便り等をおして幼小中連携の様子を家庭にも発信していく。				
			⑩安心・安全な学校生活を送るために、学校内外の安全確保の取組を行っているという回答が90ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 児童:88.9p 保護者:87.6p 教職員:92.8p	B	・2学期初めに地区担当が通学路の集合場所や通学路の確認をする。 ・学校支援ボランティアと協力して、登校は校長と生徒指導担当が自転車で学区を見回り、下校は曜日ごとに担当学年が下校指導を継続して行う。 ・毎朝、校内放送で教頭が安心・安全な学校生活を送るよう呼びかけをする。 ・委員会が廊下歩行や階段歩行について、校内放送をして全校で取り組む。				